

## 巻頭言

## 二巡目岩手国体を見据えて

岩手県教育委員会事務局教育次長 高橋 嘉行  
(財団法人岩手県体育協会副会長)



「みんなの国体 のびゆく岩手」をテーマとして、「誠実・明朗・躍進」のスローガンのもとに岩手国体（第25回国民体育大会）が開催されて今年でちょうど40年になります。昭和45年、県民の温かい支援に支えられた選手たちは、日頃のたゆまぬ努力の積み重ねにより、男女総合（天皇杯）優勝を獲得し、女子総合（皇后杯）も3位という素晴らしい結果を残しました。県内各地における温かいおもてなしや花いっぱい運動などの一丸となった取り組みは、輝かしい成績とともに、今でも一大偉業を成し遂げた県民の財産として刻まれております。

この時の選手たちは、天皇杯獲得という最高の結果をもたらした訳ですが、それまでには、各競技団体が高い目標のもとに中長期的な選手強化計画を立て、指導者・選手が頂点を目指して厳しい練習を重ねた努力というものが、さらに、その選手たちに対する県民の大きな支援がありました。「観る」「する」「支える」を総動員できたことが素晴らしい結果に繋がった大きな要因と考えております。

時は過ぎ、二巡目となる岩手国体まであと6年となりました。

今年3月には全ての正式競技と特別競技の開催市町村が内定し、開催に向けた準備が本格的に動き出しましたが、県教育委員会では、平成20年度から「第71回国民体育大会選手強化本部」事務局をスポーツ健康課内に設置し、競技力向上に取り組んでいるところです。

選手強化本部が策定した平成28年までの長期計画では、平成20年から平成22年までを「基盤整備期」と位置づけて、各競技団体の

組織強化を進めるとともに、一貫指導システムの構築と指導者の養成を図ってきたところであり、今年はその完成年となっております。今後は、平成23年から平成25年までを「育成期」として、国体時に主力選手となる高校生を対象とした強化を進めるとともに、課題である成年種別や女子選手強化を進め、さらに、平成26年から平成28年までの「飛躍期」では、重点競技の選手強化やサポート体制の拡充を図ることとしております。

また、強化本部では、この計画を推進し目標を達成するために、①「組織の拡充・強化」（各競技団体の組織強化支援、関係市町村や産業経済界との連携）②「指導体制の充実」（優秀指導者の養成・確保、指導者の配置）③「選手の育成・強化」（選手の発掘・育成・強化、選手の確保）④「サポート体制の充実」（スポーツ医・科学サポート、強化環境の整備）という4つを柱として強化事業を進めており、国体開催県としてふさわしい成績の達成に向けて、関係機関・団体が緊密に連携し一丸となった「チームいわて」として戦うことを目指しております。

本県で開催する「国内最高のスポーツの祭典」が県民にさらなる活力を与え、競技力の飛躍的な向上やスポーツ人口の大幅な増加をもたらすと同時に、この国体が「県民の力を結集した、夢と感動を与える大会」となるよう、今後もスポーツ界のみならず、県全体が力をひとつに結集して目標に向かうことを期待しているところです。